



【原文】

上賀茂

むかし健角身命と申すあり。其息女に玉より

姫と云おはせり。ある時せみの小川のほとりに逍遙

有けるに。水上より丹塗の矢ながれきたる。とりてかへ

り屋の上にさしはさむ。其後ふしぎにくわいにんし

て男子をうめり。心得ずあやしきなからをふし

たてゝこのちゝをしらんため。三歳のときに

いたりて。里人をあつめ。しゆえんさかんなると

き。かの男子にさかつきをもたせ。なんぢ父に

このさがつきをさすべしとあれば。男子さか

づきを。丹ぬりの矢のまへにをき。われは天（十四才）

神の子なりとて。たちまちいかづちとならせ天にのぼ

りて。地にくたれるいまの上がもわけいかづちの神こ

れ也。下かもは御祖の神これたまよりひめなり。また丹ぬ

りの矢はそぎのをのみことの御子。おほあなむちと申

すの化したまへる也。此矢もそのときいかづちとなり。

天にあがらせける也。今の松の尾大明神これなり。

此かもの御神事おほき中に。五月五日のくらべ馬

ことにもの見にて。かうくしくおほえたてまつる也

ほめられてかつにのるなりきほひ馬

やふる埒はあいもたまらぬ競馬かな（十四ウ）

【校訂本文】

上賀茂

むかし健角身命たけすみのみこと（注1）と申すあり。その息女に、玉依姫たまよりひめと言ふおはせり。ある時、瀬見せみの小川（注2）のほとりに逍遙ありけるに、水上より丹塗の矢（注3）流れきたる、とりて帰り、屋の上にさしはさむ。その後、不思議に懐妊かいにんして男子なんしを産めり。心得ずあやしきながら、生ほし立てて、この父を知らんため、三歳の時にいたりて、里人を集め、酒宴盛んなる時、かの男子に酒杯さかずきを持たせ、「汝、父にこの酒杯をさすべし」とあれば、男子、酒杯を丹塗の矢の前に置き、「われは天神の子なり」とて、たちまち雷いかずちとならせ、天にのぼりて、地にくだれる。今の上賀茂別雷わけいかずちの神、これなり。下鴨しもがもは、御祖みおやの神、これ玉依姫なり。また丹塗の矢は、素戔鳴尊すさのおのむねの御子みこ、大己貴おおおみむち（注4）と申すの化したまへるなり。この矢も、そのとき雷となり、天にあがらせけるなり。今の松の尾大明神（注5）、これなり。この賀茂の御神事多き中に、五月五日のくらべ馬（注6）、ことに物見にて、かうがうしくおぼえたてまつるなり。

ほめられて勝つに乗るなりきほひ馬

やぶる埒ちぢ（注7）はあいもたまらぬ競馬けいばかな

【注】

(1) 賀茂社（上賀茂神社・下鴨神社）の祖先とされる神。普通は「かものたけつののみみこと」と称する。以下の記事は、『秦氏本系帳』逸文（『本朝月令』所収）や『山城国風土記』逸文（『积日本紀』巻第九所収）に記される上賀茂神社・下鴨神社・松尾大社の伝承をふまえたものとされる。

(2) 本来は賀茂川の別名とも言われるが、現在では、下鴨神社境内の糺森ただすのもりの中を流れる小川を「せみの小川」と称している。

(3) 丹に（辰砂または赤い顔料）もしくは朱で塗った矢。

(4) 大國主命おおくにぬしのみことの別名。松尾大社の祭神は、普通には大山咋神おおやまぐわいのかみとされる。

(5) 京都市西京区嵐山に鎮座する松尾大社に祭られる神。

(6) 現在の競馬とは異なり、多くは馬場で二騎を走らせて勝負を競う神事。堀河天皇の寛治七年（一〇九三）に奉納されてから、現在まで続くときれる。「きおいうま」「こまくらべ」とも称する。

(7) 馬場の周囲にもうけた柵。埒ちぢが開かないと馬は走ることができないことから、事がはかどらず、物事の決まりがつかないことを「埒ちぢがあかない」といい、また、法や掟を破ることを「埒ちぢを破る」という。

【現代語訳】

上賀茂

昔、健角身命という神様がいました。そのお嬢様に、玉依姫という方がいらつしやいました。そのお姫様が、ある時、瀬見の小川のほとりを、気のむくままに遊び歩いていましたら、川上から赤く塗った矢が流れて来ました。お姫様は、その矢を取って帰って、屋上に差しはさみます。するとその後、不思議なことに、お姫様は妊娠して男の子を産みました。どうしてその男の子が生まれたのか、わけがわからず奇怪なことと思ひながら、男の子を育てていましたが、男の子の父親が誰なのかを知らうとして、男の子がようやく三歳になりました時、里の人々を集めて酒宴を催しました。酒宴が盛り上がってききました時、その男の子に酒杯を持たせ、「お前は、お前の父親に、この酒杯からお酒をそそぎなさい」と言いました。すると男の子は、酒杯を赤く塗った矢の前に置いて、「わたしは、天の神の子でもある」と言つて、あつという間に雷神とおなりになって天空に昇つて行かれたのでした。それから地上におりてこられましたのが、今の上賀茂別雷神という、この神様なのです。それに対して、下鴨は御祖の神といひまして、これは玉依姫です。また、赤く塗った矢は、素戔嗚尊のお子様で、大己貴とおつしやる神様が、変身なさったものです。この矢も、その時（わけいかずちの神が雷神となつて天空に昇られた時）、雷神となつて、天空にお昇りになられたのです。

今の松の尾大明神が、この神様です。この賀茂神社の神様をお祭りする儀式はたくさんありますけれども、中でも五月五日の競べ馬は、特に見物客でにぎわい一度は見物するだけの価値のあるもので、神聖で尊い儀式とお思い申し上げます。

競べ馬で、絶対あんたが一番人気とほめ立てられたあげく、負けじと勢い込んで、勝ち馬に乗ってしまったことだよ。

掟（おきて）（らち）破りは、たまらない。馬がコースからはずれ、

柵（らち）をこわして見物の人々の中になだれ込むと、「これは大変」と人々のどよめきが湧く。なんて面白いんだろう競べ馬は。

（赤瀬信吾）